

養父市立関宮学園 令和6年度 学校評価

令和7年2月18日

1 学校教育目標

夢や目標を持ち、自ら学び、こころ豊かでたくましい児童生徒の育成

2 重点目標

- ①義務教育学校の特性を最大限に生かした学校づくりを進める。
- ②確かな学力を定着させるとともに主体的に活動する態度を養う。
- ③道徳教育や体験教育を充実し「心の教育」の推進を図る。
- ④両課程の教職員が協同して、資質・能力の向上を図る。
- ⑤学校・家庭・地域が連携し、生きる力を育むとともにふるさとを誇りに思える環境づくりに努める。

4 学校評価の実施方法及び総合的な学校関係者評価

- 実施の方法
 - ・10月及び1月に全職員による学校自己評価を実施
 - ・1月に保護者にアンケートを実施
 - ・2月18日に学校関係者評価委員会（学校運営協議会）を実施
- 総合的な学校関係者評価

義務教育学校の特性を生かした教育活動ができていると感じる。学校の様子が学校だよりやホームページなどで発信されていて地域によく伝わっている。学校・地域・家庭が協力して子どもたちを育てていく取組を今後も続けてほしい。学校運営協議会も地域とともにある開かれた学校推進を行っていきたい。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目	達成状況	学校の取組状況及び改善の方策等
学校運営教育活動	義務教育学校としての学校運営	A	○前・後期の教職員がともに研修を行うことで、多様な学びにつながり研修が深まっている。それが児童生徒への指導に生かされている。 ○前・後期の教職員による乗入授業が定着し、高い専門性を生かした指導がなされ、児童生徒の学習の充実とともに、教職員の指導力向上にもつながっている。 ○行事や日常生活で前・後期の児童生徒が交流することにより、後期生徒に前期児童の見本となる自覚が芽生え、主体的に考え行動する場面が増えた。また、児童生徒会の企画が増え義務教育学校のめざすべき姿に近づいてきている。 △義務教育学校の特性や利点を保護者や地域により感じていただけるよう9年間を見通した教育目標や重点課題を教職員・児童生徒・家庭・地域で共有し、前向きに取り組んでいく。
	地域とともにある学校づくりの推進	B	○学校運営協議会を通じて、自治協や民生・児童委員の方々にボランティア活動を依頼し、地域とともにある開かれた学校づくりを推進した。今年度はボランティアお礼の会を実施し、地域と児童生徒の交流を深めることができた。 ○学校だよりや学級通信等で定期的に情報発信を行うとともに、ホームページで積極的に学校生活の様子を発信した。今年度も自治協だよりに「関宮学園トピックス」を掲載し、地域の方々にも関心を持っていただけた。 ○「そうあんくん通信」を「そうあんくんの日」の前に発行することにより、全児童生徒・全家庭と連携して「そうあんくんの日」の取組を推進し、活動内容の充実につなげることができた。 △地域とともにある学校づくりを推進するため、学校運営協議会を通して、より一層自治協との連携を進めていきたい。
	危機管理体制の整備	B	○防犯グループと連携した登下校指導や、交通トラブルへの迅速な対応など安全対策を連携して行うことができた。 ○避難訓練は様々な場面を想定して工夫して実施することができた。また、消火訓練や煙体験活動など体験を通して防災意識の向上を図ることができた。引渡訓練を行うことにより危機管理能力は一層高まっている。 △不審者対応訓練を定期的に行い、学校が安心安全な場所になるよう徹底していく。
	教職員の協働体制	A	○前・後期との情報交換や担当者の相談が丁寧になされ、義務教育学校ならではの取組が日頃から進んでいる。 ○ノー会議デー、定時退勤日、平日1日（原則水曜日）土日どちらか1日のノー部活デーを設定するとともに、その他の日も業務の効率化を図り、勤務時間の適正化につなげている。 △業務内容の整理と精選、担当の偏り解消を進め、業務量の適正化を図っていき、児童生徒と向き合う時間をより多くしていく。
	教職員の資質向上 (研修、体罰・ハラスメント防止)	A	○県の指定を受け道徳科の研究に取り組んだ。前・後期の教職員がともに研究し、指導力向上につなげている。 ○体罰、ハラスメント、非違行為防止について研修等を継続的に行っている。 △スキルアップ、学力アップをめざし、教職員間の授業見学を増やすなどして研鑽を積む必要がある。
	生活指導	A	○前・後期の生活指導日誌を全教職員に配信することにより、情報共有している。きめ細かな指導につなげられ、家庭との連携が適切に行うことができていく。 ○生活アンケートや個人面談等で、いじめの未然防止、早期発見、早期対応につなげている。また、校内サポートルームを新設し、多様性と個を大切にしたい対応ができるようになった。 ○S C、S S W と連携し、ケース会議等で情報共有を図りながら個への対応、心の教育を進めていくことができた。 △学校への楽しさを感じさせながら、様々な試練を乗り越えたり、自分の良さを見つけたりする力をさらに育てていきたい。
教科指導	自ら学び、自ら考える力の育成	B	○異年齢集団との交流学習・活動を行うことで、自分たちの成長を感じたり、目標とする将来の姿を想像したりすることができ、意欲向上につながった。 ○対話による学習活動に取り組むことで、学習に対して前向きな発言が増えた。 △基礎学力の定着とともに、主体的・対話的で深い学びになるよう授業及び家庭学習について工夫改善していく。
	基礎の定着と個に応じた学習指導	A	○義務教育学校の利点を生かし、前期の早い段階から可能な限りの教科担任制を導入することで、系統性や専門の見地に重点を置いた指導が進められている。 ○出席停止の期間に児童生徒の学習が滞らないようオンライン授業を行い、スムーズな登校再開となるよう進めている。 △個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させていく。
	道徳教育	B	○道徳で学習したことを、生活の中で実践していく姿が見られた。今後も自分ごととして考えさせる発問により道徳的実践力を高めていく。 ○本年度の研修の柱として、児童生徒の道徳性に関わる発達を見据えた授業改善を図ることを推進できた。ねらいとする道徳的価値を明確にすることで、児童生徒に考えさせたいことをはっきりさせ、工夫を凝らした授業を模索し、実施することができた。 △学級担任だけでなく担任外も含めたローテーション授業を行い、多面的・多角的な視点で道徳的心情を育んでいく。
	外国語教育	B	○後期の英語教員が前期の外国語指導にあたり、教科担任制を用いた指導形態を取り入れることができた。 ○ALTを3～9年の全授業において積極的に活用することで、児童生徒に会話の楽しさを感じさせ、抵抗感を減らす工夫がなされ、国際理解教育に結びついている。 △授業以外の日常生活の中で、ALTと外国語で会話したり、外国語に触れたりする機会を増やしていく。
課題教育	人権教育	B	○人権作文の作成や人権教育講演会への参加など、人権意識の高揚を図る取組を推進し、思いやりの心が育っている。 ○ジェンダーレスを推進し、個性を大切にしたい生活空間となるよう生活心得を見直したり、トイレにカーテンを取り付けたりするなど環境を整えた。 △様々な学校生活の場面において、承認欲求の充足を図るような働きかけや自尊感情、自己肯定感を育む指導、人権意識、福祉意識を高める指導を継続して行っていく必要がある。
	特別支援教育	B	○校内教育支援委員会のもと、個に応じた指導・支援、保護者との連携等を組織的に行うことができていく。 ○通級指導を積極的に活用し、指導員と連携して児童生徒理解と個別の支援にあたることもできた。 △定期的・計画的に情報交換し、学校生活や進路の充実に向けて、一人一人に寄り添った支援につなげていく。
	キャリア教育	B	○キャリア教育の視点のもと、行事のねらいを掲げ、地域人材の活用、交流等、9年間を見通して実施している。 ○7年生では地域の社会人等を外部講師として招聘し、これまでの経験や実際の様子を聴く貴重な機会となるよう設定することができている。 △キャリアパスポート、キャリアノートにより効果的な活用をめざし、研修していく必要がある。
	安全・防災教育	B	○交通安全教室、避難訓練及び日々の学習の中で指導され、危機管理への意識の向上が図られ、能力を高められている。 ○1・17追悼集会や避難訓練、防災体験活動を通し、一層の防災意識や知識の向上を図ることができた。 △能登半島地震を教訓とし、避難所開設時の職員の対応について理解や行動ができるようにする研修も必要である。
	特別活動	B	○児童生徒会の活動は、自分たちの生活の向上に向けて、自治的な取組が図られている。 ○運動会や文化祭、学習発表会など児童生徒の自主性を引き出すよう取り組んでいる。 △行事の精選は必要だが、教育効果も考えて検討する必要がある。
	その他の課題教育	A	○校内サポートルームを新設し、支援員と連携しながら登校しにくい児童生徒の居場所が確保された。 ○地域の方々に感謝の気持ちを伝える場面を増やし地域とのつながりを大切にしたい取組ができた。 △バス代など物価の高騰を受けスキー教室などの行事の費用が高くなっており、対応が必要である。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校関係者評価
<p>・前期後期の教職員がともに研修ができているのは義務教育学校ならではの、いいことである。教科担任制が推し進められ乗入授業が定着し子どもたちが専門性の高い学びを得られており、今後も継続して行ってほしい。</p> <p>・学校だより発行の頻度が高く学校の様子がよく分かる。隣保回覧になって地域の方もよく読まれている。</p> <p>・1～9年生まで見ていただいているが、低学年時の情報による偏見にとらわれずその時々々の状態に注視し、情報共有していただきたい。</p> <p>・校内サポートルームはとても望ましい子どもたちの居場所になっていることが分かった。来年度も是非、継続実施していただきたい。</p> <p>・道徳の授業で「自分事として考える」ことを意識して取り組まれており、とても良いことだと感じる。建前ではなく本音の部分を大事に指導していただいている。</p> <p>・学校の特色を推進しようとしているものは市の補助があった方が特色ある学校になるのではないか。地域からも後押ししていただけるよう、しっかり声を上げていかなければいけない。</p> <p>・交通安全教室や避難訓練などしっかり取り組んでいただいているが、今の時代何が起こるか分からないので不審者対応も実施してほしい。防犯カメラを設置していただいているが、校地内は敷地が広いので死角がないようにしていただきたい。</p> <p>・SNS利用の増加に伴って犯罪も増加している。消費者生活出前講座の利用などにより対策していただいている。養父市でも被害が出ているのでそのような学習を一層大切にいただきたい。</p> <p>・避難所開設は原則市が主導で運営していくことではあるが、使っても良い教室を分かるようにしていただきたい。</p> <p>・ALTと気軽に話せる給食や休み時間など授業外での時間を活用して外国語教育を推進していただきたい。</p> <p>・お礼の会が行われ、地域とのつながりができている。</p>